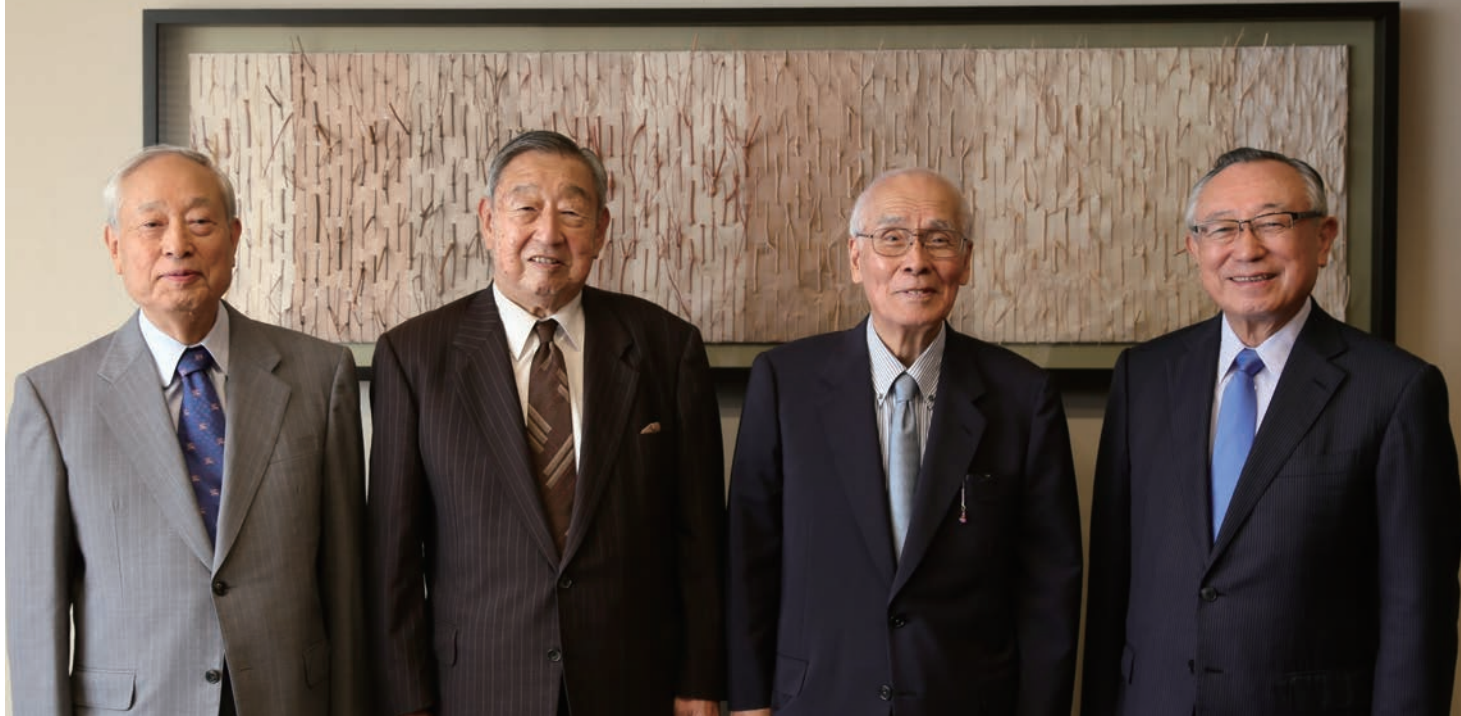


# 東京修猷会会報第30号記念企画



箱島信一相談役(昭和31年卒)  
会長在任期間 平成20~23年  
朝日新聞社元社長

野上三男相談役(昭和20年卒)  
会長在任期間 平成10~13年  
三井信託銀行元専務  
三井振興元社長

藤吉敏生相談役(昭和26年卒)  
会長在任期間 平成14~19年  
日刊工業新聞社元社長

大須賀頼彦会長(昭和37年卒)  
会長在任期間 平成27年~  
小田急電鉄前会長(現取締役相談役)



題字・箱島信一書  
発行 修猷館同窓会  
東京支部事務局  
〒185-0034  
東京都国分寺市光町2-14-85  
(有)パルティール内  
FAX 042-573-5060  
東京修猷会ホームページアドレス  
<http://www.shuyu.gr.jp>

## 「修猷らしさ」とは何か 歴代四会長座談会

平成元年の創刊から30周年を迎えたことを記念し、4人の会長職経験者が、母校と卒業生、そして東京修猷会に流れるものについて語り合いました。

### 脈々と流れる 「自主性」の伝統

大須賀頼彦会長(昭和37年卒)  
本日は東京修猷会の会報第30号を記念して、歴代の会長にお集まりいただき座談会を開くことにしました。私の前の会長でした中川勝彦先輩(昭和35年卒)が残念ながらお亡くなりになりましたので、その前3代の会長の皆さんにお集まりいただきました。テーマは「修猷らしさとは何か」です。まずは皆さんの修猷現役時代から振り返ってもらいましょうか。

野上三男相談役(昭和20年卒)  
私が入学した年に太平洋戦争が始まり、卒業した年に終戦となりました。最初の3年ぐらいいは一応、学校に通う生活が守られて、すぐれた先生方に接する事もできました。今ではとても考えられないでしょうが、試験が終わるごとに成績順に席替えがありました。一番が後ろの右端に座り、左へ順々に並んでいく。一番前にいる奴は先生から「お前、またここか!」とガツンとやられたりしていた。ただ、いつも一番前にいても、たとえラグビーが上手かったりして、何かしら個性を持っていた。だから、ガツンとやられた本人も特に気にしていなかったし、周りが馬鹿にする

ようなこともなかったですね。戦争が激しくなってきたら工場動員が多くなって、学校は空っぽ。遂には4年生の繰上げ卒業が決まって、5年生と一緒に卒業という異常事態となり、卒業式は一応ありましたが、その後も工場で働いていました。  
藤吉敏生相談役(昭和26年卒)  
私は野上先輩と入れ違いで昭和20年4月に入学し、学制改革の関係で、6年間学びました。最初の強烈なできごとをひとつお話ししましょう。その年の8月に終戦を迎えると、まもなく予科練(注・海軍飛行予科練習生)の略。特攻隊として出撃した者も多かったなどで生き延びた人が帰ってくるわけです。すると彼らが朝の授業が始まる前や昼休みに教室に入ってきて、「お前ら、たるんどる!!」「我々は死ぬつもりで戦いに行ったんだぞ!!」とか説教をする。その上で「お前ら、立て!!」と言って、平手打ちでパンパンパンと。当時は彼らに対して先生も何も言えなかった。怖かったですね。  
箱島信一相談役(昭和31年卒)  
そのころは暴力が日常茶飯事に行われていたそうです。ただ、私が入学した昭和28年には一切なくなっていました。これは後に東大教授になる柴垣和夫さん(昭和27年

卒)が「なんとかしなくちゃいけない」ということで、総務になられたときに「暴力絶滅」を掲げて、学校と直談判した。当時の井上孝太郎館長と「我々は暴力を止める。学校側は暴力を振るった生徒に対して厳罰に処して欲しい」と契約を取り交わしたと聞いています。

### 東京にいるから感じる 「修猷らしさ」

大須賀 その後、皆さん東京に出てこれたわけですが、福岡を離れて感じる「修猷らしさ」はありますか?  
私は、修猷の卒業生は具体的な言葉にはならない、共通の「空気」みたいなものをハートのどこかに持っているような気がしています。多分それは、年代が違っても、卒業から何十年経っていても、10代後半のあのころに、西新のあの校舎の、あの空気のなかにいたというだけで、相通じるものがあるのだと思います。  
藤吉 たしかに若い人に「修猷卒業です!」と言われると、「ああそうか! お前も修猷か!」と一気に親しみがわくよね。  
箱島 私は朝日新聞記者としての駆け出しが福島支局でした。福島の日銀支店長が交代したときに支局長から「取材に行つてこい」と言われたので行ってみると、話しているうちに修猷の先輩だということが分かった。先輩は、それまでは駆け出しとはいえ記者相手なので丁寧な言葉で対応していましたが、「おお、そうか!」となって、一瞬で変わりましたね。たまたま毎日新聞の駆け出し記者も修猷だったので、それからは3人でしょっちゅう「修猷会」という



こともあろうでしょう。  
箱島 私がいたときの副総務が元気のいい人で、生徒集会の壇上から「お前ら下級生はたるんどる。鉄拳制裁、敢えて辞せず!」と言ったことがある。すると即座に総務が「お待たせ!」と言って、副総務を直ちに解任したことを鮮明に憶えています。今でも運動会をはじめいろんなことを生徒が自主的にやっていますが、先生から言われるのではなく、生徒たちが自主的にルールを

作って、それを守るのにはやはりすごいことだと思います。「自主性」は修猷に脈々と流れる伝統でしょう。

名のお飲み会をしていました。藤吉 私も日刊工業新聞の若い記者時代に同じようなことがありました。エネルギー担当をしていた時ですが、当時の三井鉱山の社長が修猷の大先輩だった。あるとき記者会見で社長が「おい藤吉、お前の隣に座れ」と言うわけです。すると私よりもずっと年上で偉い記者は「なんでそんなことを社長に言われるのか」と私に聞く。すると社長が「俺の修猷の後輩なんだ」と説明していました。なんとというか、修猷というだけで後輩を可愛がるというのは、今でもあるんじゃないかなあ。  
箱島 ほとんど理屈を超えていますよね。  
野上 ただ、(後輩側が)場をわかまえてくれるのも特徴じゃないですか。修猷ですからと行って、何か頼みに行くというのはあまり得意じゃないというか。大須賀 たしかに「修猷です」と言って、最初からビジネスに利用しようとするのは修猷らしくない感じがします。実際にあまりいいないでしょう。  
野上 知らずに飲んでいて「お前、修猷か!」と分かるのが一番ビタツとくる(笑)。スパッと親しくなるね。  
箱島 「東京ならでは」ということで言うと、東京に出てきて心細い思いもするなか、先輩に声を掛けてもらったりするのが、ちよっどいい感じなんです。これが福岡だと「修猷度」が濃すぎる(笑)。昨年

2面につづく



野上三男氏

の総会で配られた「修猷あるある川柳」の冊子にこのような作品がありました。(修猷館絆が深すぎ 周り引く)。実際、このとおりのことがあったんです。私の同級生が中洲でバーを開いたら、OBたちが応援のつもりでドンドン来てくれた。そこで修猷の話で盛り上がりすぎて、他のお客さんがシラケてしまった。結局店を閉めることになったのです。福岡では意識しないところ、やりすぎになってしまいました。東京はたとえば同窓会で館歌を大声張り上げて歌っても問題ない。そこは遠く離れた「地の利」だと思います。

「修猷らしさ」とは何か

大須賀 一言で「修猷らしさ」を表現するのは難しいですが、木村健康さん(大正14年卒・経済学者)が、昭和37年に発行された「修猷館物語」の中で、こう書いておられます。「修猷魂」を単に「質朴剛健」と言い切るのには言葉足らずで、金生喜造さん(明治40年卒・地政学者)が挙げておられた「不羈独立」というのがより正鵠を得ているのではないかと。「不羈独立」とは、大辞林(第三版)によると、(他から何の束縛も受けないこと。何の制約も受けることなく、みずか



藤吉敏生氏

らの考えに従って事を行うこと)となっています。確かに修猷出身者は、マスコミ関係者が多いことにも表れているように、政界、財界、学会などどの分野においても、反体制派ではないけれども、何事にも是々非々というか、自分の意見、考えというものをしっかりと持っている人が多い。そのため、その世界でひとかどの人物と見られている人が多いように思います。



箱島信一氏

もハラハラしながらも見守る。たかが7ピラかもしれないけど「そういう気風というのが他にない」と言っていましたね。野上 今ももうなくなってしまうけれど、旧制高校に一番近い雰囲気ということじゃないですかね。箱島 普通の高校生は大学に入ってから初めて「自由」を感じるものじゃないでしょうか。でも私は九州大学に入っても「修猷と同じだ」と思った。修猷館にはすでに自由があった。昼飯を食べるに西新の商店街に行くというのは、当時は他の高校では考えられなかったはず。修猷の先生はハラハラされた部分はあったと思いますが、それでも一丁前として認めてくれていた。その分、それに応えなくてはいけないという生徒たちの自覚もあった。それが今もずっと、続いているのでしよう。



大須賀頼彦氏

でも無茶苦茶上司につっかつたりする奴が多くいたよ。大須賀 二木会にくる若い卒業生を見てみると、私たちのころより粒ぞろい優秀だと感じます。ただ、もうちょっとはみ出すくらいのものがあってもいいんじゃないか、という思いもある。一般的に今は大学が就職のための予備校と化し、高校はできるだけレベルが高い大学に行くための予備校になっています。修猷生はそんなに小さくまとまらずに、「大志」を持つてもらいたい。明治時代には「英語専修修猷館」として、数学も物理もすべて英語で授業をし教科書は原書という時期もありました。それらすべて「世界から後れを取らないために」という「大志」のためです。箱島 最近、人工知能の影響でこれからの10〜20年で「今の仕事の49パーセントがなくなる」という未来予測が報じられました。これからは以前の成功モデルは通用しなくなる。修猷の後輩たちが、本当に「御国のために世のために尽くす」リーダーになるには大変な時代になりそうです。野上 そのためには、戦争が終わった混乱期に、暴力を排除した力を大事にしてほしい。「自分の力」で成し遂げるといふのが一番肝心だと思ふ。箱島 たしかにそうですね。そうした伝統を繋ぐためにも同窓会組織があるわけですから、交流をますますやらなくては行けません。我々としても学ぶことがあろうし、少なくともボケ防止にはなる(笑)。卒業して、東京に来たら、ぜひ二木会にも来てください。

Column 今を伝えて30年 「会報」に込められた思いとは

第1号は後に平成元年となる昭和64年の元日に発行。以来、平成とともに年1回の発行を重ねてきた会報だが、そもそも何を目的としてつくられたのだろうか？ 当時幹事長を務めていた淵上貴之さん(昭和26年卒)は創刊理由を「同窓生同士の研鑽の場として」と回顧する。同執行部で会計を担当した岡村浩さん(昭和35年卒)は「二木会や総会に参加できなくても会費を納めてくださる方へ、年に一度お便りを届けるため」、ひいては会費納入推進の目的もあったと明かす。その成果が、会報第4号では会費納入者が「約480名から約1200名に増加」と宮川二副会長(現相談役・昭和12年卒)が記している。創刊から第18号までは、執行部内で編集会議から制作までを担っていた。第8号より12年間、執行部で会報担当を務めた棚町精子さん(昭和40年卒)は「二木会講師のほかにも、こんな活躍をしている方々がいらっしやると皆さんにお伝えしたくて、世代もさまざまな館友に寄稿依頼したと振り返る。第19号以降は、二木会担当学年が

編集を請け負う。年ごとに違うメンバーが、趣向を凝らした企画を練り制作にあたることによる紙面活性化が狙い。総会報告なども充実してきた。第25号の編集長を務め、現執行部で会報を担当する中川美穂さん(昭和61年卒)はこう語る。「会報はすべての会員宅へお送りできる唯一の情報源であり、館友を繋ぐ証です。お読みになって、東京修猷会の今と未来を感じていただければ！」 現在会報は5000部を発行。来年ふたたび元号が変わろうとも、変わらぬ館友の思いを載せて、東京修猷会の今をつむいでいくことだろう。 ※過去の会報は東京修猷会ホームページから閲覧可能です。 <http://shuyu.gr.jp/kyu/kaihou/>



会報第1号

改めて気付かされた母校の人脈力 「週刊ダイヤモンド」編集部記者 重石岳史さん(平成10年卒) 『週刊ダイヤモンド』の特集で「最強の高校」中高一貫V S 地方名門」を取り上げたのは、2016年11月19日号でした。 この特集は、同年5月に刊行した「学園の王者」慶応三田会」という別の特集から派生したものです。慶應義塾大学出身の同窓会組織である三田会のように、全国の高校にも知られざる人脈史があるのではないかと。そんな着想に基づき、私たちが取材班は、秋口から本格的な取材を開始しました。 私が担当したのは、関西、中国、九州地方の高校で、そのうちの1校が修猷館でした。 結論から言うと、私は記事の中で、修猷館を「政治家に人脈連ねる地方名門」結束力は「全国随一」と書きましたが、 それは何も卒業生だからと鼻目目に評価しているわけではなく、他校への取材ともすり合わせて客観的に判断してのことです。 人脈というのは、あくまで人と人の関係であり、その裏付けや相対評価は非常に難しいものですが、修猷館を卒業した先輩方のインタビューを進めるうち、まるで毛細血管のように張り巡らされた人脈が、戦前から連綿と続いていることに改めて驚かされました。 その結束力の源流にあるのは、修猷館同窓会の久保田勇夫会長(当時)がインタビューで語られたように、福岡で歴史的に育まれた、自主独立や在野の精神だと思えます。東京修猷会の「二木会」のよう な勉強会が東京で長く続いている同窓会は珍しく、先達の精神が継承されている証と言えるでしょう。 ところで今回の取材では、東京修猷会の大須賀頼彦会長をはじめ、多くの先輩方が快く協力してくださいました。率直に言って真面目とは到底言えない高校生活を送り、大学卒業後も長く新聞記者として国内外の転勤を繰り返して、同窓の縁も薄かった私ですが、なんとか一卒業生として修猷の系譜を受け継ぐ一端を担うことで、先輩方の恩に報いたいと思っています。ありがとうございました。



『週刊ダイヤモンド』 2016年11月19日号

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 1月 to 12月 and events like '会報発行', '総会', '新春会', etc.

東京修猷会2018年活動スケジュール

二木会は6、8月を除く毎月第二木曜日開催

二木会で金子堅太郎を語って

講師 神田紅(昭和46年卒)

2015年10月、第13回国藩校サミット福岡大会が開かれた。実行委員となった修猷館同窓生たちは準備のため...

私の役割は、会の中ほどで創作講演「金子堅太郎」を語る。金子堅太郎は、大日本帝国憲法を草案した一人...

福岡藩の下級武士の長男として生まれた堅太郎は、修猷館から昌平黌に学んだ。明治初期に黒田家の奨学金でアメリカへ留学して培った英語力...



神田紅

早稲田大学中退後、文学座附属演劇研究所を経て女優になるも、講師2代目神田山陽に出会い弟子入り。神田紅として芝居講演などで評判となり現在日本講演協会会長。わかりやすい紅流の講演には定評がある。

風ぐるま〜廣田弘毅の問いかけ〜

音楽プロデューサー・作詞家・作曲家 松尾潔(昭和61年卒)

2017年10月6日、東京国際フォーラム・ホールAで人気演歌歌手・山内惠介さんのコンサートが催された。座席数五千超を誇る日本最大級のホールを満了したファンにむかつて、福岡出身の山内さん...

若き日々を修猷館で過ごしたみなさんには、廣田先輩の生涯やその句「風車風の吹くまで 昼寝かな」の説明は不要だろう。ここではなぜ東京裁判で処された元首相を現代の歌謡曲の題材として取りあげたのかお話ししたい。

館友時評

松尾潔 早稲田大学在学中にR&B・ヒップホップを主な対象としてライヴ活動を開始。やがて音楽制作に携わるようになり、2008年には作詞作曲したEXILE「I Am」で第50回日本レコード大賞を受賞。ヒット曲、受賞歴多数。



松尾潔

第11回を迎えた今回のサロン・ド・修猷は、前回のバスツアーから再び学士会館に戻り、9月9日に開催されました。

今回のテーマは、「博多と江戸の粋なおはなし」。食と祭りにちなんだ話題をお届けしました。首相の立場にいるのはつらいことだろう。容赦ない批判に晒されることもあれば、執拗な揚げ足とりに悩まされることだってあるはずだ。だからこそ、向かい風に耐えられなければならない。

この問いに対して万人を納得させるだけの明快な答えは、容易には見つからない。だがその「解のない」ところこそ、私は廣田が後世に投げかけたテーマの現代性を見出す。そして音楽家らしく新しい歌をつくることで世に問い直すのである。

Salon de 修猷 第11回

「博多と江戸の粋なおはなし」



第2部講師・桂藤兵衛師匠

「江戸の食」としていただきましたが、おなじみの「時そば」を軽快かつ粋に演じていただきました。

しばしの休憩の後、第2部がスタート。まず導入として、落語の歴史を平成15年卒の西田亜未さんに解説いただきました。直ちに出演者が流れました。ステージ上のスクリーンが上がる。なんとそこには落語の高座が!! ほどなく江戸っ子落語家の桂藤兵衛さんが登場、場内は割れんばかりの拍手に包まれました。テーマを

Table with 4 columns: Year, Issue, Title, Speaker. Includes 2017年 二木会 and 2018年 二木会 entries.

第40回東京修猷会 二木会ゴルフコンペ 平成29年9月23日(土) 第40回二木会ゴルフコンペが、松本睦彦さん(昭和39年卒)のご厚意により千葉県山武グリーンカントリー倶楽部にて開催されました。...



今回は皆様より大変素敵な賞品のご提供を頂きました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。 二木会ゴルフ幹事 阿川真樹(平成30年卒)

# 2017 東京修猷会 総会

## 平成29年度 東京修猷会総会報告

実行委員長 市原毅  
(平成3年卒 讃猷会)

「皆さん、修猷を愛していま  
すか？」

誰しもが心の奥底に持つ修猷愛を再確認したいとの想いで、総会のテーマを「つむぐ修猷愛」とした平成29年度東京修猷会総会は、同年6月9日(金)にハイアットリージェンシー東京に過去最多の715名の館友の皆様をお迎えして、盛大に開催されました。



水崎雄文先生

修猷館同窓会からは5月に就任された川崎隆生会長、津田純嗣副会長、西高辻信良副会長が出席。総会第一部では、川崎会長、東京修猷会大須賀頼彦会長、坂本友司副館長にご挨拶を頂戴し、また松尾隆広幹事長より前年度の事業報告が行われました。



磯村賢治先生

第二部では、私ども讃猷会がお世話になった(ご迷惑をお掛けした?)学年主任の水崎雄文先生(昭和30年卒)と国語科の磯村賢治先生(昭和45年卒)に福岡からお越しいただき、懐かしい思い出話や温かいお言葉を賜り、楽しく和やかに進行致しました。

懇親会は清田瞭副会長の乾杯ご発声により開始。「つむぐ修猷愛」をテーマに準備した学年企画二つを披露させていただきました。「修猷あるある川柳」の作品発表と、今回の総会に向けて作成しました曲「つむぐ星よ」のコーラス披露です。最後に平成29年の卒業生

と、開催を控えております近畿・福岡・東京の各同窓会総会の幹事学年にご挨拶をいただき、館歌斉唱・エールを経て盛会の内に閉会となりました。

幹事学年を仰せつかり自分たちらしいテーマを追求してまいりましたが、ご来場の皆様に修猷に対する愛を再認識いただき、多くの修猷愛をつむぐことができておりましたら幸いです。

また、私個人としましては、一昨年に実行委員長を拝命して以来、一から同期に声を掛け始め、日一日と輪が広がっていくのを実感。うれしさを覚えつつ、高校時代というかけがえのない3年間を共に過ごした仲間と同じ目標に向かって一致団結していく機会をいただけたことをとても幸せに思っております。

この場をお借りし改めて皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本年の皆様のご多幸を心よりお祈りしております。



市原実行委員長

## 2つの 学年企画

本井圭介  
(平成3年卒 讃猷会)

讃猷会では総会ご出席の皆様「修猷愛」を呼びさますべく、2つの企画を準備しました。

1つ目は「修猷あるある川柳」です。年代・居住地等を問わずに参加可能で「修猷愛」を感じる事ができる企画として立案しました。高校生活・部活・運動会など川柳のテーマは多岐にわたり、幅広い年代から400を超える投稿をいただきました。そのすべてを懐かしの写真と共に冊子として編集、総会出席者全員に配布したほか、懇親会では人気投票による上位5作品と大須賀会長、市原委員長推薦の2句を発表しました。

2つ目がコーラス「つむぐ星よ」です。私たちの「修猷愛」を歌詞としてつむぎ、新しい修猷の歌を創るという企画で、曲作りやコーラス隊の参加者集め等、本当に実現できるのか当初は不安だらけでした。シンガーソングライターの宇佐元恭一先輩(昭和53年卒)に作曲から歌唱指導までご協力いただき、素晴らしい曲が完成しました。

合唱部OBを中心に昭和35年卒から卒業間もない平成29年卒まで、幅広い年代でコーラス隊を編成し、4回の練習を重ねましたが、練習初日からいきなりのできばえで改めて修猷生の実力に感服。まるで運動会のタンブリング練習初回でいきなり7ピラが立ったような感動を覚えました(笑)。本番では、修猷生なら誰でも口ずさめる歌詞も相まって、会場全体が一体となり大変な盛り上がりとなりました。総会企画にご支援ご協力くださったすべての皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 「修猷あるある川柳」推薦作品

【大須賀会長推薦の一句】  
名にし負う 修める猷は はるか先  
ビール多留 (昭和40年卒)

【市原実行委員長推薦の一句】  
青春は 大運動会で 幕を閉じ  
匿名希望 (昭和46年卒)

【人気投票第1位獲得作品】  
六光星 素知らぬ人との 縁寄せ  
ppkp (平成2年卒)

【人気投票第2位獲得作品】  
朝必視 もうかり黒板 どうやるか  
ムー (昭和41年卒)

【人気投票第3位獲得作品】  
「修猷」の 時だけハズム 我が父娘  
匿名希望 (昭和33年卒)

【人気投票入賞作品】  
共学のはずが男クラ 頭クラ  
愛猫 (昭和59年卒)

【人気投票入賞作品】  
時経ても すぐに出てくる 我が館歌  
あるある齋 (平成7年卒)

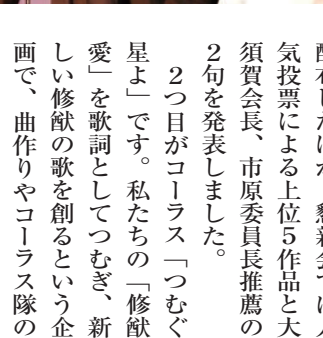
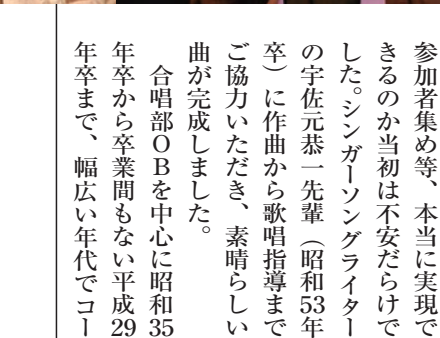
◎市原委員長 推薦コメント  
運動会は修猷生にとって、最大のイベント。特に3年時には高校時代のすべてを注ぎ込んだとも感じられることを、「幕を閉じ」で見事に表現されています。  
◎第1位獲得者コメント  
思いがけぬ朗報に感無量です。名刺入れに纏わる出来事から詠んだこの句のような2019年の福岡の大同窓会を目指しています。  
梶本聖高(平成2年卒)

## コーラスに参加して

岡村浩さん(昭和35年卒)  
世代を超えて50人あまりが歌の力をあわせた数ヶ月は貴重な体験であった。第二の館歌ともいべき現代的な曲を紡ぎあげた宇佐元恭一さんも讚えたい。東京修猷会の精神にかない、総会にふさわしい企画に感謝する。

甲畑真知子さん(昭和44年卒)  
お誘いを受け、「踊る阿呆に見る阿呆、踊らな損損！」と仲間に入れていただきました。その結果、生涯に刻まれる幸せな思い出になりました。すばらしい歌！コーラスは上手い下手じゃないですね。  
小林大輔さん(昭和57年卒)  
高校3年間学業を忘れ合唱に浸かり、応コンでも音楽を担当。「歌はわが命」の自分

福嶋望実さん(平成29年卒)  
素敵な企画にお誘いいただき、ありがとうございます。温かい先輩方と過ごした時間は、とても楽しかったです。歌にはやはりパワーがあり、人と人をつなぐことのできる素敵なものだと再認識しました。



企画担当の本井圭介・白石順子



# つむぐ修猷愛

～世代超え 織りなす思い 幾多(いくそばく)～

715名という過去最高のご出席を得て盛会となった平成29年度総会。来場者の感想とともに、実行委員長による総括、そして「つむぐ修猷愛」をテーマにした学年企画「コーラス」「修猷あるある川柳」の様子を紹介します。



東京修猷会の皆様には様々な機会にお世話になっており、当日、感謝の気持ちをお伝えしようと思っておりましたが十分言い尽くせなかつたので、この紙面を借りて補足させていただきます。2016年の文化講演会では伊藤哲朗様に講演をいただき、国家について深く考える機会をいただきました。

江口館長の代理で東京修猷会総会に出席させていただきました。挨拶の時は、各界で大変緊張いたしました。皆様が大変温かく迎えてくださり、何とか大役を果たすことができました。心から感謝申し上げます。その上、この会報にも登場させていただきました。誠に光栄に思います。

## 東京修猷会総会に出席して

副館長 坂本友司  
(昭和55年卒)

尽力により、17年4月、3年生対象の英語講演が実現し、生徒が世界に目を向けるよい機会となりました。さらに、濱田正弘様には、毎年奨学金を生徒に支給いただき、後輩の未来を支えていただいております。このような方々からのご厚意に改めて心から感謝申し上げます。さて、副館長として働いていることの証として問合せの続報を一つ。「ニュートンのリンゴの木」についてテレビ局から照会があり、①修猷館にニュートンのリンゴの木があるのか、②実が落ちる瞬間を撮影可能か、③どのような経緯であるのか、というものでした。テレビ局もよっぽど暇なのだなと思いつつ、確認すると、そう呼ばれる木がありませんでした。しかし、実はありませんので、撮影は無理。経緯は不明でした。本家のニュートンのリンゴの木は、接ぎ木

により分譲されて、日本の小石川植物園に送られており、さらに接ぎ木されたものが各地の研究・教育機関に渡ったということ、その時期が本校の木とほぼ一致していました。ただ、いつ誰が持ち込んだかは不明です。ご存知の方はご一報ください。最後に、挨拶で紹介したたとえで締めくくります。生徒の活躍は花です。勉強や進学の活躍は花です。勉強や進学の花を咲かせています。修猷館は花をつける枝葉を支える幹。花や幹は地上にあつて目立つ部分ですが、最も重要な部分は地下にあつて目に見えない根です。植物とは地上に見えている部分と地下に隠れた根が、ほぼ同じ形をしているので、花が咲くのは地下の大きな組織があるからこそ。つまり、生徒の活躍は、修猷館同窓会があるからこそです。日本の中心である東京にも立派な組織があることを、本当に有り難く思います。今後とも後輩へのご支援・ご声援をお願いします。



## 「つむぐ星よ」制作にあたって

宇佐元恭一  
(昭和53年卒)

そこは渋谷のセルリアンタワー、後輩たちと初めての顔合わせ。東京修猷会の総会にて、力になってほしいと。自分が音楽で母校に恩返しができるよき機会と捉え、早速楽曲作りに取り掛かることに。まずは歌詞、修猷生なら誰でも共感できるキーワード、時間軸。そして、ロケーション、イベント、本質。しかも難しい言葉をあえて使わず、覚え

## 総会に参加して

中山 広毅  
(平成25年卒)

2017年春に就職で東京し、初めて東京修猷会に参加させていただきました。各年代のみならず世代を超えた盛り上がりはものすごい熱量で、館友の繋がりをひしひしと感じることができました。また、個人的には前年の就職活動でお世話になった方々へのお礼と報告も行うことができ、気持ちも新たに新社会人として邁進していこうと思えた有意義な時間となりました。社会に出て間もない私ですが、館友なら聞き覚えのある「自由とは何か」という問いが非常に現実味を帯び、社会全体で問われていると感じます。この不確実な世の中こそ、経験を共有してきた館友の繋がりを大事に紡いでいこうと思える会でした。ありがとうございました！

## つむぐ星よ

星の元集う 館友に恩師  
笑顔も 涙も 玄海の風に

始まりは遙か 二百数十年の  
学びや 遊びや 百道浜の空

つむぐ星よ つむぐ夢よ  
修猷 修猷 修猷 トコトワに修猷

パネル一枚が 織りなすは未来  
赤白 青黄色 競えしも未来

放課後も響く 館友の声は  
アートも スポーツも 文武両道なりて

つむぐ星よ つむぐ夢よ  
修猷 修猷 修猷 トコトワに修猷

わずか三年間の 出会いこそあれど  
思いは 今でも 西新のままに

行く年を重ね 年号移りしも  
修猷の絆は 強くなるばかり

つむぐ星よ つむぐ夢よ  
修猷 修猷 修猷 トコトワに修猷

つむぐ星よ つむぐ夢よ  
修猷 修猷 修猷 トコトワに修猷

トコトワに修猷  
トコトワに修猷



ラバラ、また世代も幅広い館友たち。月に1度の練習のたびに、めきめきと皆さんがひとつに。そして迎えた本番。最初はピアノ伴奏でコーラスを披露のあと、レコーディングしたカラオケでの2回目。会長さんたちも急遽ステージにご参加くださり、大合唱！ 押し寄せてくるような会場からの熱い思い。こういう形で自分の歌が歌い継がれていくこと、これこそが「つむぐ星よ」。この学校を卒業して本当に良かったと改めて思いながら。皆さん、本当にありがとうございました。

## 東京修猷会2018年度総会のご案内

テーマ：「for You, for 友, for 修猷～広げよう "Shuyu" の輪～」

6.8

今年も第2金曜日

2018年6月8日(金)18:00～ ハイアットリージェンシー東京クリスタルルーム

幹事学年：朋猷会(平成4年卒)

【学年企画 情報募集】1.『芸能、スポーツ、文化等の分野でご活躍の館友名、卒業年』 2.『東京周辺のお店の店名、オススメメニュー①館友が働く飲食店②イチ推し博多ラーメン、うどん、料理店等』 連絡先:h4kikaku@gmail.com(企画担当 田中大介) 締切：2018年2月28日

右のQRコードからどうぞ→



'18



# 骨太のたくましい生命体「修猷」

## 修猷館高校教頭 岡本圭吾(昭和56年卒)



修猷館での21年間の教員生活の後、教頭として他校に移り、昨春、6年ぶりに戻りました。

対面式では「お前たちはまだ修猷生ではない！」と総務が一喝。まもなく応援歌指導が始まると、新入生はその迫力に(もちろん団体への直接刺激は随分前になくなっていくのですが)度肝を抜かれ、顔が引きつり涙ぐんでいました。

大運動会は、緑ブロックの人数がかなり増え、ブロック長は男2人、女2人。どのブロックも情熱・気合いともに十分で、熱く燃えました。しかし、何もかもをリセットして気合いを入れ直す伝統の共通語「すまん！」は、いつの間にか聞かれなくなっていて、ふとさみしさを感ずりました。さて授業はというと、知的な刺激に満ちていて、お約束の脱線(人生に役に立つ話)も頻りに。しかもみんな起きていて!? 寝ている生徒が異常に少ない由々しき事態に卒業生としてはやや複雑な心境……。感心したり、戸惑ったり、ほっとしたりの日々を楽しみながら勤務できることに感謝しております。

教頭という立ち位置は「ぐつと我慢でよからうもん！」という感覚で、教員時代とは多少違った視点で学校に関わって

# 修猷館レポート



驚旗において準優勝した東海大相模高校を相手に善戦し、その一歩も引かない力強い挑みは場内に感動を与えました。ディベート部は、全国の強豪校から最有力優勝候補と目され、生徒達自身も史上最強の自負のもと全国大会に挑み果たせませんでした。惜しくも全国制覇は自信と誇りは後輩達が引き継いでいます。部活動の詳細は

修猷館HPをご覧ください。生徒たちを温かく、厳しく見守る先生方も元気で(も)とも職員の高齢化という問題は深刻ですが、昔と変わらず、ちょっと変わった先生の存在も学校の大きな魅力です。また同窓会のご支援、父母教師会や地域の方々のご理解とご協力は以前にも増して格段のものがあると感じております。

修猷文化における不易「世のため人のため」は、まさに今日の教育改革が求めるものであります。多くの同窓生が世界で活躍し、社会に大きく貢献している姿が証となり、修猷の伝統的な教育のあり方は、最も新しい学びの姿を具現するものとして全国からも注目されています。諸先輩方に続くたくましい人材を育むべく、チーム修猷は一丸となって頑張っております。今後とも、ご指導ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 「修猷館に来てほしい」小学生ふれあい教室

## 修猷館高校教諭 佐々木英治

551人。何の数字かわかるだろうか。本校の学区(第6学区)は福岡市中央区、城南区、早良区、西区、南区の一部、糸島市であるが、南区はごく一部なので省いたこの地域の平成27年度5月の小学6年生は7400人、28年度5月の中学1年生は6849人であり、差し引き551人。

一家転住による転出はごく一部で、なんと551人の小学生が公立の中学校に進学せず、中高一貫の私立中学に進学する現状がある。私立中学進学が悪いわけではないが、若い保護者のなかには私立の中学校でなければ将来が不安だとまで思い詰めている方もいるとか。



「公立中学から修猷館に来てほしい。このコースには実はメリットがいくつかある。文武道の骨太な人格形成。すばらしい卒業生の方々のつながり。最難関の大学にも十分に入れる。本校で生き生きと高校生活を謳歌する生徒とふれあつてもらえば、修猷館がどんなにすばらしい高校かわかつてもらえる」ということをお伝えしたいと思ひ、4年前から小学生と保護者を対象に広報活動を開始した。初年度26年度は保護者のみを対象として「小学生保護者対象説明会」という名称で実施。参加者約90名。2年目からは対象を子どもにも広げ、参加者約180名。この年から「スポーツふれあい教室」という企画を始め、運動部の諸君に協力を依頼した。ラグビー部の猛者たちの間を、ボールを抱えてちよるちよる走り回る愛らしい少年や、黒帯の大きなお兄さんを投げてガッツポーズをするお下げ髪の少女。親たちも目を細めた。本校生のホスピタリティの高さにびっくりである。3年目からは名称を「小学生ふれあい教室」に改め、文化部にも場を広げた。参加者約650名。そして今年、約800名の参加者であふれかえった。

29年の参加者に実施したアンケートでは、24%の方が、子どもを私立中学に行かせるが、公立中学に行かせるか迷っている」と回答。ここが広報のカギである。「修猷館という高校を初めて知った」「地域にこんないい高校があったなんて」という驚くべき回答も。しかしこれが転勤族の多い学区の実態だ。

これからも、的を射た広報活動を心がけていきたい。

親として参加して  
奥田竜子(平成33年卒)  
私立偏愛のママ友に「いやいや、憧れを原動力に。絶対行きたいと思う気持ちは何よりもチカラになるはず。親はただ、そんな我が子をそつと見守り応援する。」



いや、おすすめるは修猷やろ」と、これまで必死で伝えてきた。単なる地域の進学校ではない。先輩後輩のつながりと強固な信頼、自分のことを信じる力の醸成。

けれど言葉だけではもどかしい。見てもらえれば分かりやすい。触れ合えば感じるはず。生徒ひとりひとりがどれほど輝き楽しんで自主的に毎日を過ごしているか。

子連れで出かけた「ふれあい教室」で、ぼつたり修猷の同期に会った。「子どもがすごく楽しかったって。修猷館に行きたいって言うてくれたよー」と感慨深げ。

憧れを原動力に。絶対行きたいと思う気持ちは何よりもチカラになるはず。親はただ、そんな我が子をそつと見守り応援する。

「小学生ふれあい教室」、大成功です!!

# 東京パラリンピックを目指して

## 柔道部3年 瀬戸勇次郎

2017年8月、浜松市で開催された第10回記念全国視覚障害者学生柔道大会に出場し、男子66kg級で優勝しました。

目に障がいをもつ僕は、小さなボールを追いかける球技や屋外の競技が苦手です。しかし柔道は相手との距離が近く、目が悪くても大きなハンデを負うことはありません。

4歳の時に柔道を始め、高校でも柔道部に入学しました。試合の残り時間を示す表示が見えにくかったり、組み際の反応が遅れたり多少の不自



第10回記念全国視覚障害者学生柔道大会にて

き、なんとか優勝しましたが、新たな課題も見つけることができました。柔道の奥深さをひしひしと感じながらこれからも邁進し、3年後の東京パラリンピックを目指し日々精進していきたく思います。この大会に参加させていただくにあたり、お世話になった関係者の皆さんに感謝します。

# 全国大会19回連続出場!!

## ディベート部3年 雉本幹哉

まずは、私たちディベート部が今年も全国大会に出場したことをご報告します。連続出場は19回。このように毎年全国という舞台でディベートをできるのは、修猷館同窓会の温かい応援、優しい指導、そして多大なるご支援のおかげです。部員一同、心から感謝しております。

ディベートとは、ある論題に対して肯定側と否定側に分かれて討論をし、どちらの議論が勝っていたかを第三者である審判に判断してもらう競技です。したがって、自分の

主張により説得力を持たせて伝える力が求められます。そのため、スピーチの練習はもろろん、論題に関する情報の収集、堅固な議論の構築など、さまざまな準備をして大会に臨みます。その過程では仲間たちと全力で討論し、お互いを高め合いました。部員皆で協力し議論を創り上げた日々は、ディベートで培った対話力、論理的思考力などと共に、修猷館が私たちに与えてくれた貴重な財産です。

今年、関東地区の強豪校と練習試合を重ね着実に準備を



ディベート甲子園九州大会の表彰式にて

修猷館同窓会 会長就任ご挨拶

川崎隆生(昭和44年卒)



明けましておめでとうございます。東京修猷会会報が30号、30年の歴史を積み重ねられたことに敬意を表し、お慶び申し上げます。

2017年の同窓会総会で会長に就任して、半年になりました。新年を迎えるにあたり「海の内外 陸の涯」で活躍されている「館友幾多」のためにお役に立てればとの思いを新たにしております。



西高辻信良 副会長  
太宰府天満宮 宮司



津田純嗣 副会長  
株式会社安川電機 代表取締役会長

顧問 川村正喜(昭和17年卒)  
顧問 波多野聖雄(昭和26年卒)  
顧問 出光芳秀(昭和31年卒)  
顧問 久保田勇夫(昭和36年卒)  
名誉会長 江口善雄 館長  
会長 川崎隆生(昭和44年卒)  
副会長 大須賀頼彦(昭和37年卒)  
副会長 津田純嗣(昭和44年卒)  
副会長 西高辻信良(昭和47年卒)  
常任幹事長 大賀啓史(昭和46年卒)  
事務局長 田中雅美(昭和50年卒)

修猷館同窓会役員紹介

数年前の世代の話でした。修猷館は古今東西神出鬼没なのです。昨年、新入生に配られた「修猷生になるために」の巻頭言に生徒会総務の佐藤由菜さんはこう書かれています。「修猷生には自分と違う考えの持ち主が沢山いる。彼らは時に、君達がチャンスに手を伸ばすように背中を押し、君達の考えがより深いものになるように刺激を与えてくれる」。私はこれこそ「修猷愛」の原点だと思います。つまり多様な社会に多様な人材を輩出できるからこそ母校への愛が育ち、半世紀後に生まれた後輩から教わる喜びが修猷への愛を深いものにしてくれるのだと思います。

「中国四国修猷会」設立!

河野浩(昭和46年卒)

平成29年3月5日、J.R. 広島駅近くのホテル・ニューヒロデンにて、館友45名の参加により、中国四国修猷会の設立総会を開催することができました。中国四国修猷会設立のきっかけとなったのは、その5年前の平成24年1月24日付の中国新聞に掲載された、現役修猷生の東日本大震災被災地訪問の記事でした。この記事に採り上げられた修猷生は平成25年に修猷館を卒業した後、広島大学に進学。そのことを知った広島の「Xさんばち会」(昭和38年卒)の先輩3名が、修猷館平成25年卒の広島大学生5名と交



平成29年3月設立総会を開催

流の機会を持つことができ、「君達が卒業するときは広島で修猷館同窓会を作って祝っちゃる!」と約束したそうです。今回の中国四国修猷会設立はこの約束を果たしたものです。当日は、修猷館の女子制服をテーマにした企画で多めに盛り上げられました。今回は、マンパワーの関係で広島県在住の方にしか案内できませんでしたが、次回...平成30年6月23日(土)は、中国四国エリア全域に案内させていただきます。ご存知の方がいらっしゃれば、是非ともお声掛けをお願いします。連絡先:河野浩(昭和46年卒) メール: hiroshi-kono@docomone.jp 電話090-4691-3874

昭和44年卒 学年便り

白井 信雄 (昭和44年卒 常任幹事)

2年後の東京オリンピックの年に古稀を迎える我が学年は、昭和44年春に卒業。まもなく卒業50周年。44年に因み、「獅子の会」と称し活動。東京では、平成7年度総会を担当、その3年前から伊佐裕君らの声掛けで活動開始したのが始まり。もともと、旧交を温めるためと夜遅くまで杯を酌みかわしただけが。総会では、「修猷の伝統は運動会を体験することで継承されるので」と唱える黄順姫さん(現筑波大学社会学類教授)らのトークを企画。

を中心に、6月総会後の二次会と秋の会の年2回開催。在京の同級生約30人が参加。昨年6月は、来賓で総会に出席した同級の同窓会会長川崎隆生君、同副会長の津田純嗣君を交え新宿の居酒屋で開催。総会に出席できなかった連中が先に盛り上がりつつある中、両君らの合流でさらにヒートアップ。両君の修猷への熱い思いを受けとめ、東京でも応援していくことを確認。会の終わりは、いつも久保田修平君のエルと館歌斉唱で締めくく。秋の会は、ここ数年は神保町の如水会館で開催。最近、開始時間も繰り上がり12時から、安否確認の色彩も。また、今林定道君を中心にゴルフも盛ん、年3回ほど開催しまでもなく30回。



65歳を機に九州へ帰る同級生も増えてきたが、「人生100年時代」皆、ますます意気軒昂。昨年より、福岡と連携し音信不通者の発掘や、50周年イベント企画などの取り組みを開始。今後も、女性初の幹事長甲畑真知子さんを、福岡では同窓会長、副会長を送り出している学年として、東京修猷会をしっかり支え元気にやっていきたい。

東京修猷会 年会費納入のお願い

東京修猷会の会報の印刷・発送をはじめ年間行事等の活動は、全て皆様の年会費3,000円で運営されております。どうぞ会費の納入にご協力ください。

●年会費は年間を通じて受け付けております。

郵便振替、銀行振込、コンビニ振込、クレジットカード決済が選べます。二木会や総会の受付でも可能です。

郵便振替

口座名義:東京修猷会事務局  
口座番号:00170-6-172892

銀行振込

銀行名:ゆうちょ銀行 口座名義:東京修猷会事務局  
店名:019(ゼロイチキュウ) 店番:019  
預金種目:当座 口座番号:0172892

コンビニ振込

同封の振込用紙をご利用下さい

クレジットカード決済

東京修猷会のホームページから申込みください。  
《東京修猷会 http://shuyu.gr.jp/tky/annualfee/》

お振込のうち年会費を超える額はご寄付とさせていただきます。郵便振替・銀行振込は会員の特定が困難な場合があります。必ず卒年をいれるようお願いいたします。

2017年度寄付金

2016年11月1日から2017年10月31日までに多数の皆様からご寄付いただきました。ありがとうございました。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

- 修猷館同窓会、近畿修猷会、中京修猷会、(副館長)坂本友司、(昭9)富田明德、(昭15)明石隆次、(昭19)田尻重彦、(昭20)野上三男、(昭22)増崎昭夫、(昭23)白木彬雄、(昭25)山本義治、(昭26)小西正利、(昭26)中村道生、(昭26)常岡宏、(昭26)藤吉敏生、(昭26)谷日出男、(昭26)太田進、(昭27)金田久仁彦、(昭28)吉見健三、(昭28)松口龍彦、(昭28)児玉黎子、(昭28)真武保博、(昭29)高木道子、(昭29)桑原収、(昭30)田中栄次郎、(昭30)水崎雄文、(昭31)高崎洋一、(昭31)影山滋、(昭31)箱島信一、(昭31)村田和夫、(昭31)中村保夫、(昭31)浅田恭夫、(昭32)井上智晴、(昭32)山下隆三郎、(昭32)和田隼生、(昭32)鳥居健太、(昭32)平野照幸、(昭32)國分英臣、(昭33)貫隆夫、(昭33)佐竹儀治、(昭33)武石忠彦、(昭33)大西正俊、(昭34)平田寛、(昭34)讚井邦夫、(昭34)服部富美子、(昭34)行武賢一、(昭35)伊藤洋子、(昭35)可児晋、(昭36)横倉稔明、(昭36)土井高夫、(昭36)安藤誠四郎、(昭36)濱地康彦、(昭37)大須賀頼彦、(昭38)上田茂、(昭38)渡辺紀大、(昭39)貝島資邦、(昭39)松本陸彦、(昭39)久保田康史、(昭39)清田瞭、(昭39)井手篤雄、(昭40)棚町精子、(昭40)由良範泰、(昭40)山形紀明、(昭40)井上浩、(昭40)岩下朗子、(昭41)桑原昭二、(昭41)高木健二、(昭41)有山賢良、(昭41)安田修之助、(昭41)恒松芳一、(昭41)高尾義行、(昭41)羽立賢二、(昭43)尾上陽一、(昭44)今林定道、(昭44)甲畑真知子、(昭44)坂井真知子、(昭44)與小田健、(昭45)本田由紀子、(昭46)土肥研一、(昭46)栗山英俊、(昭46)鹿見島正信、(昭48)高山信彦、(昭49)本庄英智、(昭49)古森光一郎、(昭49)井手富士雄、(昭50)野中哲昌、(昭51)中屋祐司、(昭51)油田哲、(昭52)寺岡隆宏、(昭54)中原滋、(昭54)井田博之、(昭56)田中昭人、(昭57)光宗信吉、(昭58)齋藤百合子、(昭58)井手慶祐、(昭59)白壁勝榮、(昭59)服部豊、(昭60)野田幸裕、(昭60)山根堅司、(昭60)朱雀誉史、(平3)友成安利、(平7)片岡達、(平21)原秀平

執行部役員紹介



原田 新副幹事長 (平成元年卒)

この度副幹事長を拝命しましたガンガン会の原田佳代子と申します。主に会報ならびにサロン・ド・修猷を担当させていただきます。総会・二木会での幹事学年活動をきっかけに、同期や先輩後輩との輪がぐっと広がりました。今後は、館友との絆を深めてくれたこの東京修猷会の魅力を皆様に発信しながら、緑の下の力持ちのお手伝いをさせていただきます。ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

30号を記念し、大須賀会長のご発案で歴代会長の座談会が実現。貴重なお話が伺えました。「修猷愛」をテーマにした今号、巻頭の座談会からご寄稿の一篇一篇にいたるまで、母校や館友への想いを感じていただけましたら幸いです。会報の歴史を調べるなかでは、代々の有志のご尽力と皆様の会費によって会の活動が続けられてきたことを実感。これもまた「修猷愛」ですね。末筆ながら、本会報にご協力くださったすべての方々に心よりお礼を申し上げます。平成30年卒 讚猷会 会報編集担当一同